

目次

第1篇 JRの運賃・料金

Introduction 1：はじめに

No.1：JR運賃・料金 ①（運賃と料金、乗車券類の発売時期、年齢区分）

No.2：JR運賃・料金 ②（運賃の算出） 本資料に掲載

No.3：JR運賃・料金 ③（運賃計算の特例）

No.4：JR運賃・料金 ④（運賃の割引）

No.5：JR運賃・料金 ⑤（料金の種類）

No.6：JR運賃・料金 ⑥（料金計算の例外）

番外：山陽・九州新幹線、東北・北海道新幹線の料金

No.7：JR運賃・料金 ⑦（乗継割引）

No.8：JR運賃・料金 ⑧（団体旅客の取扱い）

No.9：JR運賃・料金 ⑨（乗車券類の有効期間）

No.10：JR運賃・料金 ⑩（乗車券類の払戻し）

No.11：JR運賃・料金 ⑪（乗車変更、運行不能、列車の遅延、乗車券類の紛失）

第2篇 貸切バスの運賃・料金計算

No.12：貸切バスの運賃・料金

第3篇 宿泊料金の計算

No.13：宿泊料金の計算

第4篇 フェリーの運賃・料金計算

No.14：フェリーの運賃・料金の計算

第5篇 国内航空の運賃・料金の計算

No.15：国内航空の運賃・料金 ①（航空運賃と航空券の規則）

No.16：国内航空の運賃・料金 ②（さまざまな航空運賃）

No.2：JR運賃・料金②（運賃の算出）

運賃は「**輸送に対する対価**」であり、**距離を基準**に設定されています。しかし、移動距離によって単純に比例する訳ではなく、路線や会社により算出方法が異なります。この点をしっかり理解しましょう。

1. 幹線と地方交通線

① 全国の路線は、以下のように幹線と地方交通線に分けられ、異なる運賃を適用します。地方交通線の方が高額です。

幹線：全国の主要地域を結び、輸送量が比較的多い路線。JR版の時刻表では黒い線で表示されています。

《例》東海道本線、中央本線、東北本線、山陽本線、山陰本線、予讃線、土讃線、鹿児島本線、など 60 路線以上

地方交通線：幹線に比べて、輸送量の少ない路線。いわゆる「ローカル線」のことです。JR版の時刻表では青い線で表示されています。

《例》宗谷本線、八高線、小海線、飯田線、和歌山線、徳島線、久大本線 など 90 路線以上
路線名を覚える必要は全くありません。

② 駅間の距離の表示は、幹線と地方交通線は以下のように異なります。

幹線の場合	
東京	——— (東海道本線) ——— 熱海
営業キロ：104.6 キロ	
*営業キロのみで表示される。	

地方交通線の場合	
岐阜	——— (高山本線) ——— 富山
営業キロ：225.8 キロ	
換算キロ：248.4 キロ	
*営業キロと換算キロの2種類で表示される。	

営業キロ：ほぼ実測に基づいて表示される距離。

換算キロ：営業キロを約 10%増した距離。幹線とまたがって乗車する場合などに適用される。

正式には「賃率換算キロ」といいます。

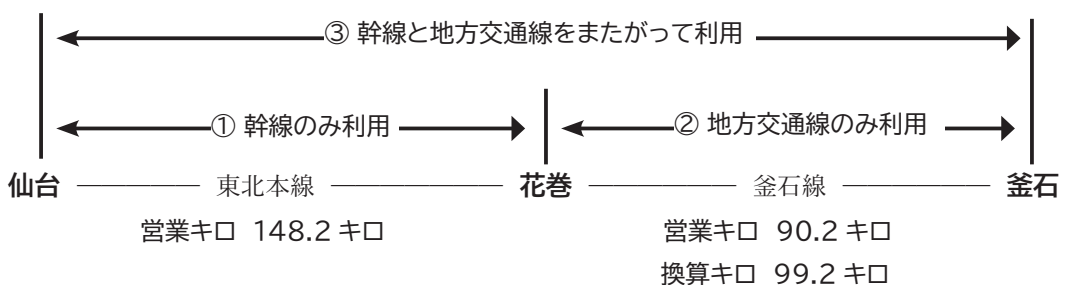
擬制キロ：上記の換算キロとほぼ同じ意味であるが、JR四国とJR九州ではこの名称を用います。

2. 運賃の算出方法（その1）

運賃は距離を算出して運賃表に当てはめて求めますが、会社や利用路線により少し異なります。

まず、同一会社内のみを利用する場合について説明します。

a. 本州 3 社（JR東日本、JR東海、JR西日本）内とJR北海道内の場合



《資料》

JR九州の運賃表	
営業キロ (運賃計算キロまたは擬制キロ)	片道運賃
31 ~ 35 km	660 円
36 ~ 40 km	760 円
41 ~ 45 km	860 円
51 ~ 60 km	1,130 円
81 ~ 90 km	1,680 円

[Check Test No.2]

《資料》の運賃表を参照して、次の記述が正しければ○を、誤っていれば×を付けなさい。

(ただし、途中の駅では下車しないものとします。)

- (1) 秋田～弘前間の大人1名の片道運賃は 2,640 円である。

秋田 ————— (奥羽本線) ————— 弘前
営業キロ：148.4 キロ

- (2) 網走～上川間の大人1名の片道運賃は 4,840 円である。網走と上川は、北海道内の都市です。

網走 ————— (石北本線) ————— 上川
営業キロ：189.1 キロ
換算キロ：208.0 キロ

- (3) 福井～東舞鶴間の大人1名の片道運賃は 2,640 円である。

福井 ——— (北陸本線) ——— 敦賀 ——— (小浜線) ——— 東舞鶴
営業キロ：54.0 キロ 営業キロ：84.3 キロ
換算キロ：92.7 キロ

- (4) 徳島～阿波海南間の大人1名の片道運賃は 1,470 円である。

徳島 ————— (牟岐線) ————— 阿波海南
営業キロ：77.8 キロ
擬制キロ：85.6 キロ

- (5) 高知～穴吹間の大人1名の片道運賃は 2,460 円である。

高知 ——— (土讃線) ——— 佃 ——— (徳島線) ——— 穴吹
営業キロ：87.8 キロ 営業キロ：30.3 キロ
擬制キロ：33.3 キロ

- (6) 南宮崎～串間間の大人1名の片道運賃は 1,680 円である。

南宮崎 ————— (日南線) ————— 串間
営業キロ：77.0 キロ
擬制キロ：81.8 キロ

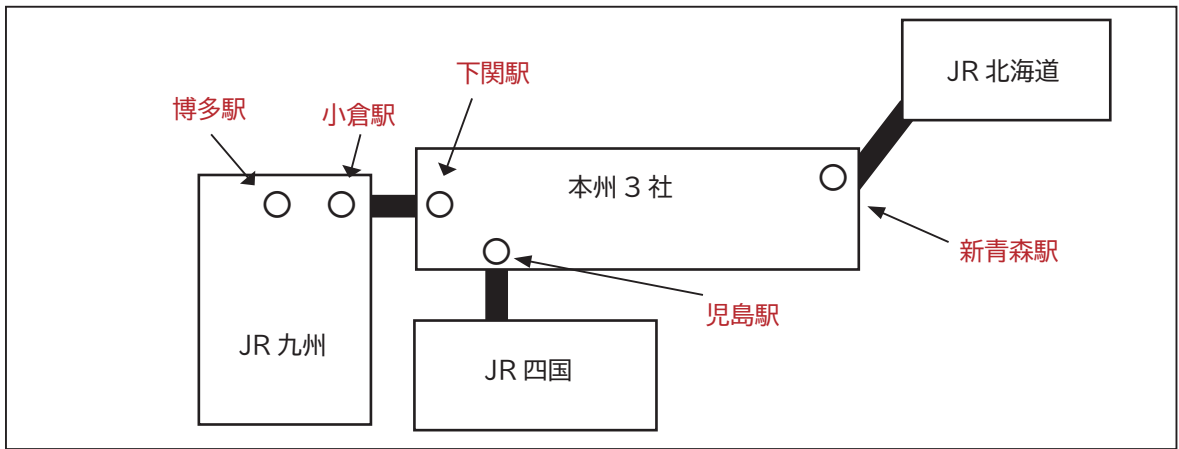
3. 運賃の算出方法（その2）

JR 各社の運賃は分割後も全社共通でしたが、1996年に**3島会社**（JR 北海道、JR 四国、JR 九州）の運賃がそれぞれ値上げされました。これにより本州3社（JR 東日本、JR 東海、JR 西日本）と3島会社にまたがって乗車する場合には、3島会社については**差額**を徴収することになりました。 **本州3社の運賃は共通です。**

a. 境界駅

本州3社と3島会社の境界は以下の各駅です。

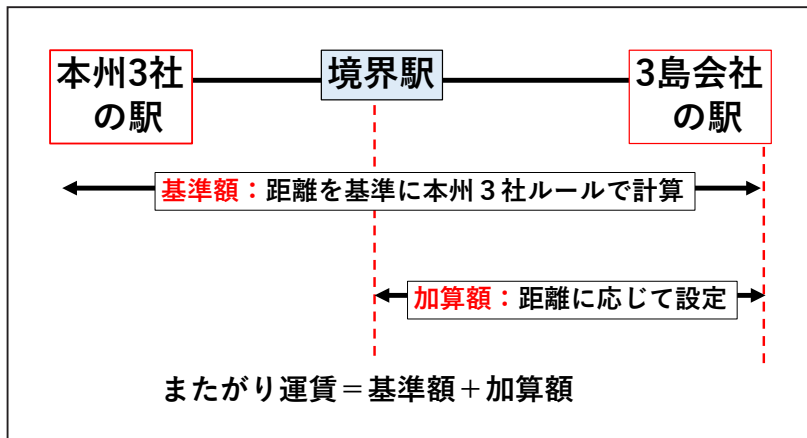
本州3社	境界駅	3島会社
JR 東日本	—— 東北新幹線・奥羽本線 —— 新青森駅 —— 北海道新幹線 ——	JR 北海道
JR 西日本	—— 瀬戸大橋線 —— 児島駅 —— 瀬戸大橋線 ——	JR 四国
JR 西日本	(在来線利用) —— 山陽本線 —— 下関駅 —— 山陽本線 ——	JR 九州*
	(新幹線利用) —— 山陽新幹線 —— 小倉駅 —— 鹿児島本線・日豊本線 ——	
	(新幹線利用) —— 山陽新幹線 —— 博多駅 —— 九州新幹線・鹿児島本線 ——	



* JR 西日本と JR 九州の境界駅は、在来線（新幹線以外の路線のこと）を利用するときは下関駅、新幹線を利用するときは在来線との乗継駅（小倉駅または博多駅）です。山陽新幹線は JR 西日本の管轄だからです。

b. 基準額と加算額

本州3社と3島会社にまたがった行程の運賃は、全行程を本州3社のルールで計算した額を**基準額**とし、これに3島会社の距離（営業キロ又は運賃計算キロ）に応じた**加算額**を加えて合算した額を適用します。
これを「またがり運賃」といいます。



c. 具体例

- ① 秋田 ——(奥羽本線)—— 新青森 ——(函館本線・室蘭本線)—— 札幌
 営業キロ 181.9 キロ 営業キロ 449.6 キロ

本州3社の幹線の運賃表	
営業キロ (運賃計算キロ)	片道運賃 (基準額)
601～640 km	9,790 円

JR北海道の加算額表	
営業キロ (運賃計算キロ)	片道運賃
261～ km	770 円

基準額：181.9 + 449.6 = 631.5 → 632 キロ → 9,790 円 (本州 3 社の幹線用運賃表)
 加算額：449.6 → 450 キロ → 770 円 (JR 北海道の加算額表)
 またがり運賃：9,790 円 + 770 円 = 10,560 円

- ② 津山 ——(津山線)—— (岡山) ——(瀬戸大橋線)—— 児島 ——(瀬戸大橋線)—— 高松
 営業キロ 58.7 キロ 営業キロ 27.8 キロ 営業キロ 44.0 キロ
 換算キロ 64.6 キロ

本州3社の幹線の運賃表	
営業キロ (運賃計算キロ)	片道運賃 (基準額)
121～140 km	2,310 円

JR四国の加算額表	
営業キロ (運賃計算キロ)	片道運賃
41～45km	210 円

基準額：64.6 + 27.8 + 44.0 = 136.4 → 137 キロ → 2,310 円 (本州 3 社の幹線用運賃表)
 加算額：44.0 → 44 キロ → 210 円 (JR 四国の加算額表)
 またがり運賃：2,310 円 + 210 円 = 2,520 円

- ③ 防府 ——(山陽本線)—— 下関 ——(山陽本線・鹿児島本線)—— 博多
 営業キロ 86.7 キロ 営業キロ 79.0 キロ

本州3社の幹線の運賃表	
営業キロ (運賃計算キロ)	片道運賃 (基準額)
161～180 km	3,080 円

JR九州の加算額表	
営業キロ (運賃計算キロ)	片道運賃
71～80km	160 円

基準額：86.7 + 79.0 = 165.7 → 166 キロ → 3,080 円 (本州 3 社の幹線用運賃表)
 加算額：79.0 → 79 キロ → 160 円 (JR 九州の加算額表)
 またがり運賃：3,080 円 + 160 円 = 3,240 円

在来線利用の場合です。

- ④ 徳山 ——(山陽新幹線)—— 博多 ——(鹿児島本線・長崎本線・佐世保線)—— 佐世保
 営業キロ 192.2 キロ 営業キロ 117.0 キロ

本州3社の幹線の運賃表	
営業キロ (運賃計算キロ)	片道運賃 (基準額)
301～320 km	5,500 円

JR九州の加算額表	
営業キロ (運賃計算キロ)	片道運賃
101～120km	190 円

基準額：192.2 + 117.0 = 309.2 → 310 キロ → 5,500 円 (本州 3 社の幹線用運賃表)
 加算額：117.0 → 190 円 (JR 九州の加算額表)
 またがり運賃：5,500 円 + 190 円 = 5,690 円

新幹線利用の場合です。

- (3) ○：路線は本州内（JR 西日本）。幹線と地方交通線を利用。
 よって、営業キロと換算キロを合算した運賃計算キロを用いて、本州3社の幹線用運賃表から算出する。
 $54.0 + 92.7 = 146.7 \rightarrow 147$ キロより、2,640 円
- (4) ×：路線は JR 四国。地方交通線のみを利用。
 よって、擬制キロを用いて、JR 四国の運賃表から算出する。
 $85.6 \rightarrow 86$ キロより、1,660 円
- (5) ○：路線は JR 四国。幹線と地方交通線を利用。
 よって、営業キロと擬制キロを合算した運賃計算キロを用いて、JR 四国の運賃表から算出する。
 $87.8 + 33.3 = 121.1 \rightarrow 122$ キロより、2,460 円
- (6) ○：路線は JR 九州。地方交通線のみを利用。
 よって、擬制キロを用いて、JR 九州の運賃表から算出する。
 $81.8 \rightarrow 82$ キロより、1,680 円
- (7) ×：路線は JR 九州。幹線と地方交通線を利用。
 よって、営業キロと擬制キロを合算した運賃計算キロを用いて、JR の九州運賃表から算出する。
 $46.1 + 55.0 = 101.1 \rightarrow 102$ キロより、2,170 円
- (8) ○：路線は本州内（JR 東日本）。幹線のみを利用。
 よって、営業キロを用いて、本州3社の幹線用運賃表から算出する。
 $351.8 \rightarrow 352$ キロより、6,050 円で、小児はこの半額で $6,050 \div 2 = 3,025 \rightarrow 3,020$ 円（10 円未満切り捨て）
 以上より、 $6,050 + 3,020 = 9,070$ 円

No.3

- (1) ○：本州～北海道の行程で、境界駅は新青森駅。
 基準額： $32.1 + 77.7 + 148.8 = 258.6 \rightarrow 259$ キロ $\rightarrow 4,510$ 円（本州3社の幹線用運賃表）
 加算額： $148.8 \rightarrow 149$ キロ $\rightarrow 550$ 円（JR 北海道の加算額表）
 またがり運賃： $4,510$ 円 + 550 円 = $5,060$ 円
- (2) ×：本州～四国の行程で、境界駅は児島駅。
 基準額： $27.8 + 118.5 + 58.6 = 204.9 \rightarrow 205$ キロ $\rightarrow 3,740$ 円（本州3社の幹線用運賃表）
 加算額： $118.5 + 58.6 = 177.1 \rightarrow 178$ キロ $\rightarrow 260$ 円（JR 四国の加算額表）
 またがり運賃： $3,740$ 円 + 260 円 = $4,000$ 円
 （注）本問の四国内区間は、地方交通線（牟岐線）を利用するため、基準額と加算額には擬制キロ（58.6km）を用います。
- (3) ○：本州～九州の行程で、新幹線を小倉駅で乗り継いでいるので、境界駅は小倉駅。
 基準額： $69.2 + 80.7 + 132.9 = 282.8 \rightarrow 283$ キロ $\rightarrow 5,170$ 円（本州3社の幹線用運賃表）
 加算額： $132.9 \rightarrow 133$ キロ $\rightarrow 220$ 円（JR 九州の加算額表）
 またがり運賃： $5,170$ 円 + 220 円 = $5,390$ 円
- (4) ×：本州～九州の行程で、在来線で乗り継いでいるので、境界駅は下関駅。
 基準額： $43.6 + 11.8 + 67.2 = 122.6 \rightarrow 123$ キロ $\rightarrow 2,310$ 円（本州3社の幹線用運賃表）
 加算額： $11.8 + 67.2 = 79.0 \rightarrow 79$ キロ $\rightarrow 160$ 円（JR 九州の加算額表）
 またがり運賃： $2,310$ 円 + 160 円 = $2,470$ 円